

製品名: Net (リン酸化 Ser357) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05073**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、ネズミ、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	38kDa

抗原情報

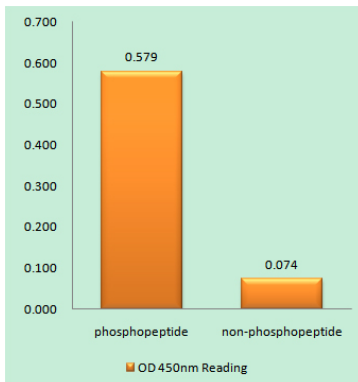
遺伝子名	ELK3
別名	ELK3; NET; SAP2; ETS domain-containing protein Elk-3; ETS-related protein ERP; ETS-related protein NET; Serum response factor accessory protein 2; SAP-2; SRF accessory protein 2
遺伝子 ID	2004.0
SwissProt ID	P41970
免疫原	抗血清は、ヒト Elk3 の Ser357 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 323-372

背景

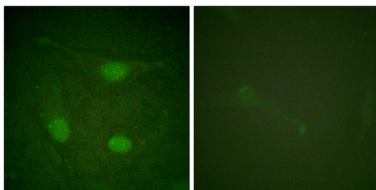
この遺伝子は、ETS ドメイン転写因子ファミリーおよび三元複合体因子 (TCF) サブファミリーのメンバーをコードします。このサブファミリーのタンパク質は、血清応答因子によってリクルートされ、血清応答エレメントに結合することで転写を制御します。このタンパク質はシグナル誘導性リン酸化によって活性化されます。げっ歯類を用いた研究では、Ras 非存在下では転写阻害因子として働き、Ras 存在下では転写を活性化することが示唆されています。選択的スプライシングによって複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2015 年 1 月]機能: 転写の負の調節因子である可能性があります。Ras、Src、または Mos と共発現すると転写を活性化する可能性があります。血清応答因子および Fos 血清応答エレメントの ETS モチーフおよび SRF モチーフと三元複合体を形成します。類似性: ETS ファミリーに属します。類似性: 1 つの ETS DNA 結合ドメインを含みます。サブユニット: CTBP1 と相互作用します。、

研究分野

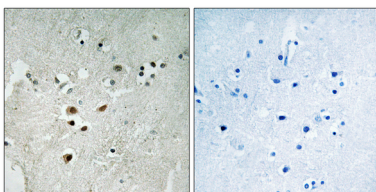
画像データ



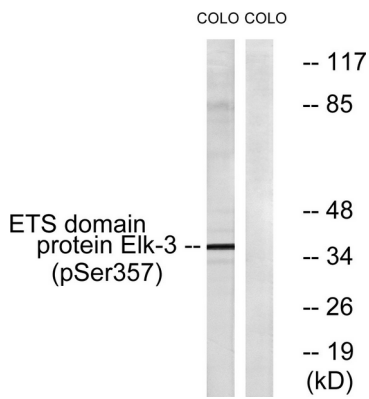
Elk3 (リン酸化 Ser357) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



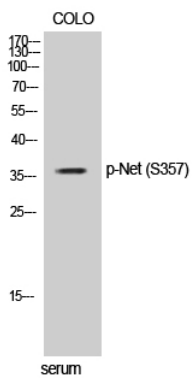
Elk3 (リン酸化 Ser357) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



Elk3 (リン酸化 Ser357) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



COLO205 細胞ライセートを血清 20% 15 'で処理し、Elk3 (リン酸化 Ser357) 抗体を用いてウェスタンブロット解析を行った。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



Phospho-Net (S357) ポリクローナル抗体を用いた COLO 細胞のウェスタンブロット解析